

平成 27 年度 第 1 回教育課程編成委員会 記録

日 時：平成 27 年 7 月 14 日（火）10:00～11:30

場 所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館 2 階会議室

出席者：小川英彦（愛知教育大学教授）、高田道雄（マハヤナ幼稚園長）、
安部孝（名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園長）、
鈴木照美（愛知教育大学非常勤講師）、武石協子（たきこ幼児園長）、
藤澤卓美（校長）、畔柳守男（副校長）、木村節治（保育科長）、浦野忍（教学主任）

議 長：校長（記録：浦野）（敬称略）

1. 開会のあいさつ

副校長より開会のあいさつがされた。

2. 校長あいさつ

校長より出席者へのあいさつと教育課程編成委員会についての概要説明が行われた。
その後、本校の組織全体の説明がされた。

3. 出席者紹介

副校長より、資料に基づき、委員の自己紹介が行われた。

4. 委員の委嘱について

副校長より、各委員へ委嘱状が手渡され、全員が承諾された。

- ・愛知教育大学 小川英彦教授（有識者委員）
- ・マハヤナ幼稚園 高田道雄園長（保育科第二部 企業等委員）
- ・愛知教育大学 非常勤 鈴木照美講師（有識者委員）
- ・名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園 安部孝園長（保育科 企業等委員）
- ・社会福祉法人NUAたきこ幼児園 武石協子園長（保育科 企業等委員）

5. 議長選出

副校長より、議長選出について提案説明がされ、内規第 4 条 2 項に基づいた審議の結果、藤澤校長が議長として選出された。

6. 説明

(1) 平成 27 年度教育課程編成委員会について

- ①本校概要について校長から説明。
- ②保育科・保育科第二部の職業実践専門課程の申請・認可について

「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規定の施行について」に沿って副校長より説明。

(2) 本校教育課程の改善について

①教育課程の概要について（保育科・保育科第二部）

資料（学生便覧・講義要綱、平成 27 年度時間割、平成 27 年度年間行事予定）に沿って教学主任（教務）より説明。

②実習全般について（保育科・保育科第二部）

資料（教育・保育実習についての取り組み、平成 27 年度滝子幼稚園実習予定表）に沿って保育科長より説明。

(3) 学校評価について

資料（学生による保育科・保育科第二部の授業評価）に沿って校長より説明。

7. 協議

(1) 本校の教育目標の具体化等について（外部委員：○ 学内委員：□）

○保育実践検定はどれくらいの学生が受けているのか。

□去年より始めたが、保育科の学生が 20～30 人が受けている。今年度は来週までが募集期間となっているが、意欲を持った学生は積極的に受けている。しかし、保育科第二部で受験する学生はいなかった。試験の設定が昼間であるので、第二部の学生には受験しにくい時間帯である。今後、第二部の学生が受験しやすいように検討する。

○実際の現場では、「折り紙」で遊ぶ回数は多いが「手遊び」はそれ程行っていない。年齢によるが、「パネルシアター」もイベント以外ではあまり行わない。壁面（ガラス面）など毎月（季節ごと）必要になるものと、イベントなどで使うようなものと分けてみてはどうか。また、短期、長期に分ける方法もある。就職したときに即戦力になるものが良いが、表現遊びはどの程度行っているのか。

□担当が音楽教員なので、楽器（合奏）などの音楽表現を中心に授業を行っている。保育科では滝子幼稚園とも連携して授業に活かしている。保育科第二部では授業の中で直接、幼稚園、保育所へ出向くことはできないが、教員の体験を聞く等の方法を取り入れている。

○保育士、幼稚園教諭養成課程のカリキュラムは多忙であり、その上でキャリア教育の充実を目指す職業実践専門課程の申請を行っているが、実習あるいは日頃の授業において、いかに現場との連携を強くしていくかが課題となる。

□保育科においては、現場との連携の拡大深化は、比較的取り組みやすいと言える。保育科第二部については、授業時間と保育現場との時間帯の違いから、連携のあり方が課題となる。保育科、保育科第二部とも、今現在のカリキュラムはととても多く込み入っている。幼児教育・保育の実践という観点からカリキュラムを見直していく必要がある。

- 現在、職業実践専門課程を申請をしている専門学校はどのくらいあるのか。
 - 明確なデータはないが、全幼教参加校の中では、約5校と認識している。
 - 継続して実習を行うなら幼児理解がどのように深まるかが重要である。一般の大学では断片的にしか見ることができないが、子どもの発達（育ち）を生で見られる環境がこの学校の特長である。
 - 保育科では授業のなかで現場に行くことは可能であるが、保育科第二部では夜間での時間帯であるので授業の中で現場に行くことは難しい。また、実習の単位としての教育実習は1年後期、保育実習は2年以降でないとかリキュラムが認められない。今後、検討していきたい。
 - 全国の保育系専門学校で、認定を受けている学校の情報を次回までに集めて欲しい。
- (2) 別紙アンケート用紙「本校の教育課程についてのご意見」を8月末までにいただき、次回の資料としたい。

以上

次回開催を9月15日（火）10:00から開始